

医科研病院だより



第27号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成27年4月15日
〒108-8639 東京都港区白金4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

治療ベクター開発室 紹介	1
すこやか・カフェ	2
栄養サブリ	3
なんでも・ひろば	4

治療ベクター開発室 紹介

治療ベクター開発室 稲生 靖

東京大学医科学研究所では、従来の治療では完治が難しい疾患に関する様々な研究がおこなわれています。そして、研究所の附属病院である医科研病院では、それらの研究成果を応用した新しい治療法の開発がなされており、臨床試験に参加すれば一般の患者さんもそれらの治療法を経験することができます。研究室での成果を治療の現場につなげるトランスレーショナル・リサーチ（橋渡し研究）は、文部科学省や厚生労働省からの強力な支援を受け、医科学研究所において活発に推進されています。

遺伝子治療を行う際、治療用の遺伝子を細胞に運ぶ役割を担うものをベクターと呼び、遺伝子組換えウイルスなどが使用されます。また、がんに対するウイルス療法においても主役は遺伝子組換えウイルスです。これらのウイルスは細胞培養の技術を駆使して製造されますが、患者さんへ投与するものは厳格な品質管理基準（GMP基準）を充足した施設で調製される必要があります。製薬会社と同等の構造設備、管理運営、維持整備体制の備わった施設はコストもマンパワーも必要ですが、研究所内に自前のGMP製造施設を持つことで、最先端の研究成果をいち早く医療現場届けことが可能になります。

治療ベクター開発室が東京大学医科学研究所に設置(ノ)

(ノ)されたのは2001年8月です。当時はGMP基準の概念が普及してまだ間もない時期であり、本邦のアカデミアでは最初の施設でした。開設以来、ハード面では施設バリデーションを毎年実施しGMP基準の維持を確認するとともに、開設10年目以降は順次設備の更新を行っています。ソフト面では品質管理システムに関してISO 9001：2008規格の認証を受け、以後毎年の維持／更新認証を受けています。各室の室圧、温度、清浄度は集中監視システムによる24時間モニタリングおよびデータ記録が行われており、ビデオ監視システムも最近導入されています。

医科研病院では膠芽腫に対するウイルス療法の医師主導治験が進行中ですが、その治験用ウイルスの製造もここで行われました。他にもプロジェクトが使用中で、現在はベクターユニットの3室ともフルに稼働しています。



トピックス

◆ 2月10日に、医科研病院では初の落語イベント「医科学研究所 如月落語会」が開催されました。医科研病院外科の釣田義一郎先生の高校の同級生というご縁で落語家の四代目桂文昇さんがご来所くださり、現代物と時代物の落語二席をご披露くださいました。桂文昇さんは故五代目桂文枝のお弟子さんで、昭和59年に入門し翌年には桂小國という名前をいただき、平成10年に四代目桂文昇を襲名されたそうです。落語の合間にはお客さんも参加してのミニ大喜利などもあり、たいへんに楽しい会となりました。



すこやか・カフェ



「医科研の御神木」

感染症分野／感染免疫内科 岩本 愛吉

医科研の感染症分野／感染免疫内科を20年あまり担当し、2015年3月31日に定年退職する岩本愛吉と申します。医科研の思い出はたくさんありますが、そのうちの一つ、医科研の木について書いてみたいと思います。

医科研の正門前には、秋に多数の銀杏をつける2連のイチヨウが有り、門を入るとうっそうとしたヒマラヤスギやケヤキ、プラタナス（ズカケノキ）などが迎えてくれます。今でもすばらしい環境だと思えます。しかし、かつてはもっと大木がありました。ぼくの記憶に強く残る木を3本ほど挙げておきたいと思えます。まず、正門から時計台のある一号館までの取り付け道路の左側に、うねるように道に張り出た大きなサクラの木がありました。車の乗り入れが増加し、歩道が整備された時、知らぬ間に切り倒されてしまいました。医科研の傍で生まれ育ち、医科研病院にも長く通院された患者さんから、「私はあの桜と一緒に育ったのよ。どうして切ってしまったの?」、と叱責されました。今の生協食堂の右手には大きなコブシの木がありました。医科研はサクラの名所ですが、サクラの開花より早く多数の花を咲かせるコブシが、春の到来を伝えてくれたものでした。また裏門の傍には、それは立派なプラタナスがありました。今のテニスコートの端あたりだと思えます。ぼくはこの木がたいへん好きでした。かつて一号館裏のグラウンドでソフトボールが楽しめた頃、この木はちょうど野球場でいえばレフト線のポールのような役割をしておりました。プラタナスの右側に打ち込めばホームランでした。

春になれば、医科研ではソメイヨシノやヤマザクラ、シダレザクラ、ヤエザクラなど多種類のサクラが次々と我々を楽しませてくれます。一号館まわりにはキリやザクロ、カリン、ソテツやシュロなども植えられています。旧公衆衛生院との間の緑地に大きなドウダンツツジがあるのをごぞんじでしょうか。カラスのトラップを挟んで、ちょうどお稲荷さんと反対側にあります。春にはスズランのような可憐な白い花をつけ、秋には紅葉する落葉樹です。

ぼくは、谷根千（谷中・根津・千駄木）として知られる地域に住んでいます。地域興しに大きな貢献をしている根津神社では、4月にツツジ祭りが開催されます。ツツジ祭りの期間中には、様々な屋台と並んで、川口市からやってくる植木屋さんが境内に開店します。3月に開花するミツバツツジの仲間から、ホンキリシマ、タイヨウツツジ、八重のツツジ、クロツツジ等、5月の連休まで様々なツツジが並びます。バリエーションの多さから、ぼくはツツジが大好きです。毎年のように小さなツツジの鉢を買って(♯)

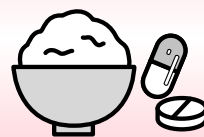
(♯)は、自宅の小さなスペースで育てています。ツツジは根付きが悪く、一部の種を除いて育つのも遅いです。根津のツツジ祭りが終わった頃から、医科研でサツキや一号館前のピンクのツツジが咲き出します。医科研に通勤していたおかげで、毎年ツツジを楽しむことができました。

ツバキも育つのに時間がかかる木の一つです。西門に向かう道に沿ってツバキが植えられていますが、ぼくが医科研に来た20年前と比べてもそれほど大きくなっていません。先ほど申し上げたドウダンツツジの傍には、結構大きなツバキがあります。しかし、病院裏手の旧寄生虫研究棟の横にあるツバキの木は天然記念物ともいえる立派さです（写真）。5年ほど前、著名な植物学者でイネの全ゲノムを解読した李家洋中国農業科学院院長（当時中国科学院副院长）が医科研を訪問された時、このツバキの所に案内しました。李家洋院長は、「これは美事な木だ。樹齢は500～700年くらいになるのではないか。」とおっしゃっていました。数百年前、医科研の敷地がどうなっていたのか想像も尽きませんが、これほど大きなツバキを見ることはまずありません。今日も青々とした葉と花をたくさんつけ、数匹のヒヨドリが木の中に巣を作ろうと飛び回っていました。医科研の御神木とも言える木だと思っています。万が一にもこの木が伐採されてしまうことがないよう願っています。

【医科研の御神木】



栄養サプリ



食塩をとりすぎていませんか？

日本人は世界でも食塩をとる量が多く、1日に10g前後とっています。
厚生労働省は、高血圧予防の観点から、日本人の1日にとる食塩を、次のように減らすことを目標にしました。（日本人の食事摂取基準 2015年度版より）

18歳以上の男性： 8.0g未満/日

18歳以上の女性： 7.0g未満/日

～食塩のとりすぎをチェックしてみましょう～

味噌汁などの汁物を食べる習慣がある



麺類が好き



干物や練製品をよく食べる



ハムやソーセージなど加工品をよく食べる



食卓に漬物が付く



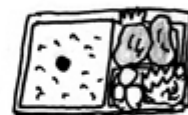
卓上の醤油やソースをよく使う



レトルトやインスタント食品をよく食べる



外食や惣菜を毎日利用する



1つでも当てはまる人は食塩をとりすぎている可能性があります。

食塩を減らすコツ

だしをきかせて薄味に



新鮮な素材を使用



汁物は1日1杯



麺汁は飲干さない



漬物・加工品はできるだけ控える



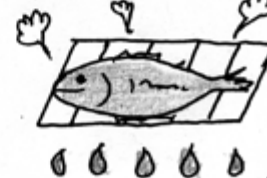
酸味や香辛料を上手に利用



醤油はかけるより小皿に入れてつける



焼き目などの香ばしさをつける



なんでも・ひろば



離任のご挨拶

看護部長 武村 雪絵

看護部長に就任してからの4年間、多くの方々に支えていただき、今日まで務めることができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

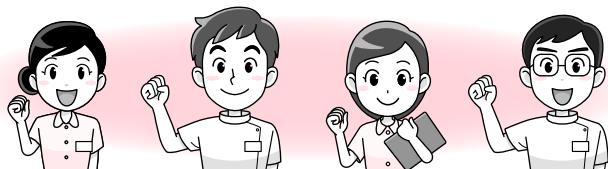
着任時にも書きましたが、私は、看護の役割と責任は、「患者の身体と心がもつ力を最大限に引き出すこと」「患者と家族、社会とのつながりを最大限に活かすこと」「患者に寄り添い、患者の意思を尊重し、患者の権利を護ること」「医療チームの力を合わせて、安全で適切な医療を提供すること」、そして、「これらの成果をまとめ未来の医療に貢献すること」だと考えています。

これらの役割を果たすために、看護部ではこの4年間、様々なことに取り組みました。新採用者受入体制を整え、91名の看護師を迎え、キャリアラダー制度やe-ポートフォリオなど継続教育も充実させました。業務の効率化と実践知の伝承、ケアの質保証を図るため、2人1組で看護を提供する「ペア・システム」も導入しました。また、オンラインで世界標準の看護手順を参照できる「ナーシングスキル」を採用し、今年度は静脈注射の業務拡大をしたこともあり、年間10万回以上アクセスされるなど日常的に利用しています。倫理カンファレンスが定着し、様々なWGで事例検討を重ねてアセスメント能力を研鑽しています。専門教育を受けた看護師による看護外来を増設できたことも、患者に看護の力・医療チームの(ノ)

(ノ)力を届ける活動としてうれしく思います。また今年度は、私たちが目指す看護と看護管理を「看護基準」「看護管理基準」として言語化しました。見直しを重ねながら、当院の看護とそれを支える管理が今後も発展していくことを願っています。

もちろん、至らない点は多々ございますが、よりよい看護・医療を提供したいという思いを持ち、日々丁寧にケアを提供しながら、様々な課題に懸命に取り組んできた看護師達を私は心から誇りに思います。そして、強い使命感と情熱を持った医療チームと一緒に働くことができ幸せでした。

4月より東京大学大学院医学系研究科看護管理学分野准教授に就任しますが、今度は教育研究職という立場から看護や医療の発展に貢献したいと思っています。東京大学医科学研究所附属病院のますますの発展を祈念いたします。



◆病院からのお知らせ◆

●臨床検体の取扱いにつきまして

当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は

http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html をご覧ください。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

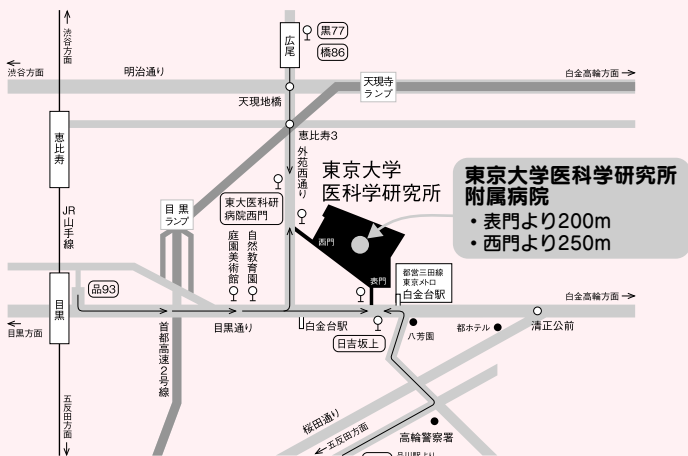
診療科

内科（総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器）

小児科（小児細胞移植）

外科（一般、腫瘍、消化器、乳腺）、整形外科（関節）

脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

診療受付時間

8：30～11：30（初診・再診）

12：30～16：00（再診のみ）

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

（確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）

予約専用電話（予約受付および変更）

診察：03-5449-5560

検査：03-5449-5355

受付時間 8：30～17：00（外来診療日のみ）

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
 - JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
 - JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
 - 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台ございます。ご利用は受付にお申し出ください。